

アナログ放送終了計画(第3版)

- アナログ放送の終了に向けた放送対応の手順について -

平成22年4月
全国地上デジタル放送推進協議会

1. 終了の基本原則

アナログ放送の終了にあたっては、2011年7月に円滑に終了できるよう、視聴者の混乱防止の観点から、

- ① 地域間で終了時期に差を設けることはしないこと
 - ② 放送終了に向けた取組を段階的に強化すること
- を基本として、放送事業者が取り組む。

また、国も、この取組が円滑に実施されるよう環境整備に取り組む。

2. 無線局の運用終了日

無線局の運用終了日は、2011年7月24日とする。

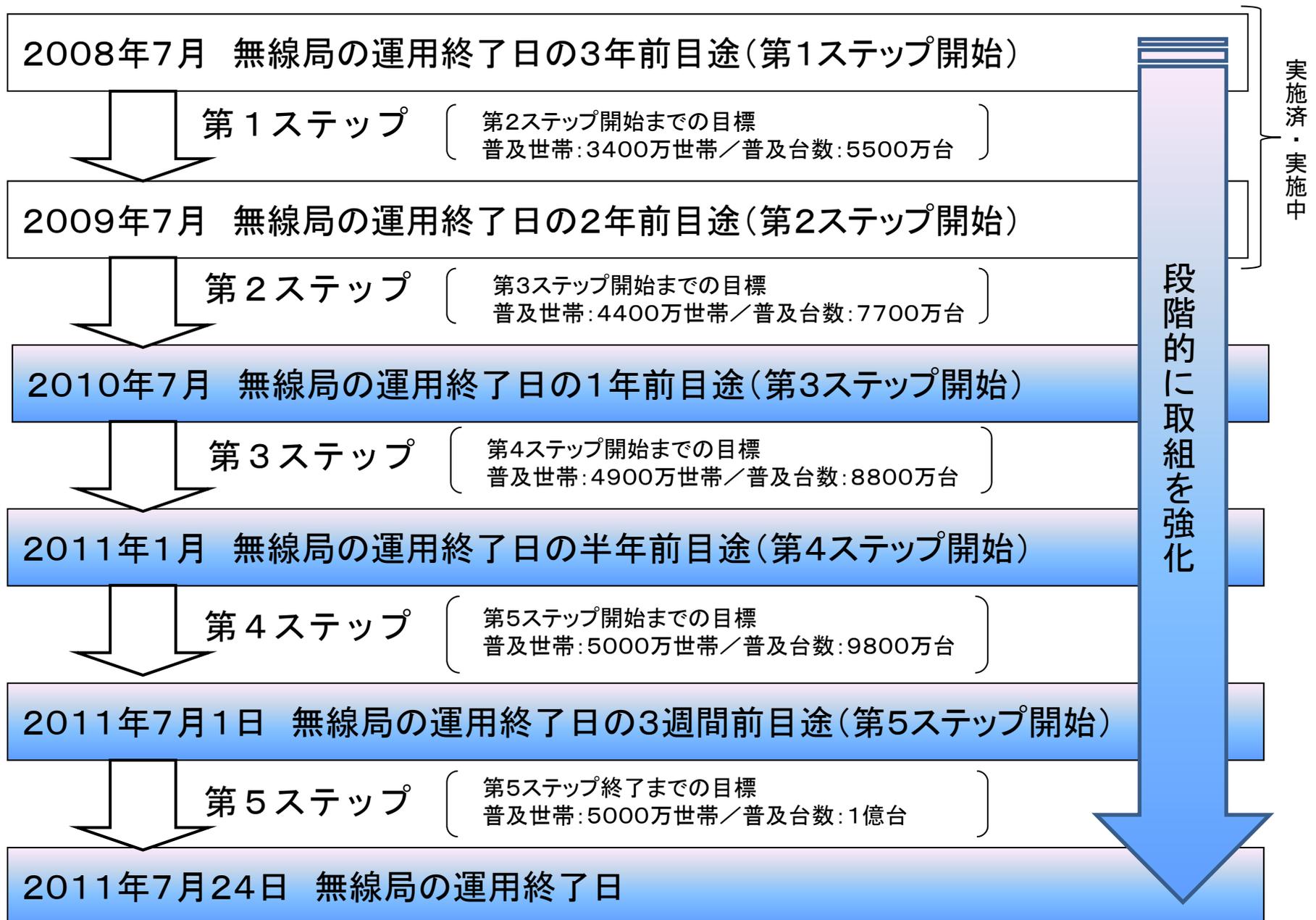
(参考) 法令上は、2011年7月24日までに終了することとされている。

3. 終了方法の見直し

今後のデジタル放送の世帯普及率等を踏まえて、全国地上デジタル放送推進協議会において、適宜、本計画を見直すこととする。

アナログ放送の段階的終了（5つのステップ）

2



第1ステップの取組（3年前～2年前）

3

取組1：放送番組による理解醸成

<民放>

- ・ ネット番組：各系列でPR強化月間を設定し、多様な番組で取上げ。
（2008年5月フジテレビ、6月TBS、8月日本テレビ、9月テレビ朝日、2009年2月テレビ東京）
- ・ ローカル番組：PR共通素材を活用し、各局が臨機に放送対応。

<NHK>

- ・ 広報番組のほか定時番組、特集番組等、多様な番組で放送するとともに、地域放送においても、地域の関心に応じて継続的に取上げ。

取組2：「アナログ」ロゴマークの表示

アナログ放送画面に「アナログ」のロゴマークを表示（参考1参照）し、アナログ放送の視聴者への注意喚起を実施。

取組3：「お知らせ画面」及び「告知スーパー」の実施

2008年7月24日から、1日の放送開始時又は放送終了時に「お知らせ画面」（参考7参照）を表示。また、「告知スーパー」（参考2参照）を適宜実施。

取組4：完全移行3年前キャンペーン

完全移行3年前となる2008年7月24日に、NHK・民放ともにキャンペーンを行い、視聴者がアナログ放送終了までのスケジュールを明確に意識できるような取組を実施。特に、NHKでは、デジタル放送とアナログ放送の番組内容を変え、アナログ放送では、アナログ放送終了のお知らせ画面を30秒間表示。

第2ステップの取組（2年前～1年前）

取組1：放送番組による理解醸成

<民放>

- ・第1ステップに続き、各系列でPR強化月間を設定し、多様な番組で取上げ。
(2009年5月テレビ朝日、7月テレビ東京、8月TBSテレビ、9月日本テレビ、11月フジテレビ)
- ・ローカル番組では、PR共通素材の活用を含め、各局が臨機応変に放送を実施。
- ・2010年6月のワールドカップサッカーに際し共通キャンペーンを実施

<NHK>

- ・第1ステップに続き、広報番組のほか定時番組、特集番組等、多様な番組で放送するとともに、地域放送においても、地域の関心に応じて継続的に取上げ。

取組2：一部時間帯での「レターボックス」実施等

アナログ放送で、一部の時間帯で「レターボックス」表示を行う（参考3参照）とともに、「レターボックス」画面上下の黒い部分を活用して告知スーパーを随時実施（参考4参照）。また、第3ステップ開始に向けて、2010年4月編成から「レターボックス」の番組数の拡充に努める。

取組3：地域課題を踏まえた番組・スポット

各地域の課題を踏まえ、各地域独自の番組やスポットの放送を全国的に強化。

取組4：アナログ放送停止リハーサルの実施

石川県珠洲市において、アナログ放送を2009年7月に1時間、2010年1月に48時間休止・停波した上で、2010年7月に完全終了。

取組1：常時レターボックス化

アナログ放送で常時「レターボックス」により放送を行うことについては、

- ・アナログ放送をご覧になっていることを一層明確に意識していただくことができる
- ・番組映像に重ねることなく上下の黒い部分にアナログ放送終了のお知らせを表示できる
- ・ハイビジョン制作の番組を4：3の画面で表示する際に両側の映像情報まで表示できるなどの効果がある。

そこで、2010年7月5日から、原則として常時「レターボックス」化を行う（参考3参照）とともに、「レターボックス」画面上下の黒い部分を活用して告知スーパーを随時実施（参考4参照）。

取組2：ソフトテストの実施

アナログ放送において、通常放送に代えて「お知らせ画面」等を表示する取組（「ソフトテスト」）を実施（参考7参照）。

取組3：放送番組による理解醸成

- ・民放 強化月間等の第2ステップの取組を引き続き実施
(2010年7月テレビ東京、8月日本テレビ、9月テレビ朝日、11月TBSテレビ、2011年1月フジテレビ)
- ・NHK 広報番組等による放送の第2ステップの取組を引き続き実施

取組1：告知スーパーの常時運用等

2011年1月から、アナログ放送で常時「レターボックス」による放送を行う際に、原則として常時「告知スーパー」を表示（参考4参照）。

取組2：お知らせ動画等の放送

アナログ放送のみで、アナログ放送終了のスポットやお知らせ動画（参考5参照）を集中的に放送するほか、アナログ放送の放送時間を差別化することも検討。

取組3：第5ステップの前倒し

デジタル化の進捗状況を勘案し、第5ステップの取組を前倒しするなど、取組の強化についても検討。

取組1：「お知らせ画面」等の常時表示

2011年7月1日から全ての放送時間帯について、「お知らせ画面」等の表示（参考5～参考7参照）による放送を実施する。

7月24日正午の停波前の一定期間、NHK及び民放がお知らせ画面のみを表示（参考8参照）することを検討する。

上記にかかわらず、緊急報道の際には通常の表示方法（参考4参照）で放送を行う。

2011年4月以降を第5ステップの前段階ととらえ、必要性和デジタル受信機の普及率を踏まえて「お知らせ画面」等の表示時間を増加させることを検討する。

取組2：アナログ放送の完全停波

原則として、2011年7月24日正午に全ての放送を終了し停波。

正午に停波することが技術的に困難な場合には、各放送事業者の判断により、2011年7月24日24時まで停波。

第4ステップ開始までに実施する環境整備の例

8

第4ステップでは、放送により、アナログ放送の視聴者に対して、デジタル放送視聴への移行を強く促すことになるため、第4ステップの開始までに、以下のような環境整備を行う。

(取組例)

- 「総務省テレビ受信者支援センター」(デジサポ)を全都道府県に設置
* 2008年10月に全国11箇所に設置し、その後全都道府県(全国52箇所)に拡充済み。
- 高齢者等に十分に情報が届くよう高齢者等への説明会・戸別訪問等をきめ細かに実施
* デジサポにより、2009年度は、説明会約8万回、戸別訪問約80万世帯を実施。
- 「簡易なチューナー」の開発・市場流通
* 2007年12月「仕様ガイドライン」公表。2009年秋に5000円以下のチューナー流通。
- 経済的に困窮度の高い世帯への受信機購入等の支援
* 2009年度からNHK受信料全額免除世帯に対する支援を実施。
- 共聴施設に対する早期改修の促進
* 2009年度に受信障害共聴施設や集合住宅のデジタル化改修に対する支援を開始。辺地共聴施設のデジタル化改修支援は2007年度から実施。
- 公共施設の確実なデジタル化
* 2008年10月に国の施設のデジタル化計画を策定。地方公共団体へも総務省から要請。
- 中継局ロードマップに記載されている全ての中継局等の整備完了
* 2010年末までに完了する予定。
- 衛星による難視聴地域対策を開始
* 2010年3月から運用開始。

(参考1)アナログロゴの表示





※画面の表示内容、表示形式等については1つの例である。





※表示内容、表示形式等については今後検討を行う。



※表示内容、表示形式等については今後検討を行う。



※表示内容、表示形式等については今後検討を行う。



※表示内容、表示形式等については今後検討を行う。



※表示内容、表示形式等については今後検討を行う。